

地域研究センター通信

アフターコロナで4年ぶりに明石ハウスで大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェを再開するなどの活動や研究をご紹介します

今号の内容

第5, 6, 7回大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ
開催報告

鈴木遥・大西慎也・中山文……①

第8回大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ
開催のお知らせ

松村淳……①

シリーズ観測研究の報告

地域研究長田センター気象観測データ紹介

福島あずさ……②

長田地域フィールドワーク報告

鈴木遥……②

教員紹介

大西慎也……③

『朝霧川源流のため池と歴史を訪ねて』
開催報告

矢嶋巖……③

地域研究センターニュース

第2, 3, 4回大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ
開催報告 ほか ……④

2024年度 大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ

開催のご報告

第5回 9/18 明石ハウスでの開催は4年ぶり！人文学部の鈴木遥講師が「インドネシア沿岸の住文化と資源利用」と題し、自然環境と住文化の関わりについて講演しました。現地の写真や動画を交え、人々の暮らしや住居のメンテナンスなどについて紹介しました。終了後は、参加された皆様との活発な質疑応答が行われました。



講演会の様子

第6回 10/16 2024年度第6回大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェが開催され、人文学部大西慎也教授が講演を行いました。「戦後日本における理想の教師像の変遷—金八先生はいい先生なのか—」と題し、テレビドラマの主人公を題材に、戦後日本における理想の教師像の変遷をふまえて、教師教育の在り方について参加者と共に探究しました。



講演会の様子

第7回 10/26 図書館でシェイクスピア
『抜き書き・ロミオとジュリエット』
リーディング公演

10月26日(土)、あかし市民図書館において大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ 2024・第7回として、中山ゼミ生による『抜き書き・ロミオとジュリエット』のリーディング公演が行われました。



2016年より人文学部中山ゼミで学生による戯曲制作・上演を行ってきました。制作上演を通して、学生たちは創作・協調と社会性を学び、舞台に立つことで自信をつけていきます。

今年8月に稲爪神社でのリーディング公演が好評でした。今回は台本なしでの再演。

昨年より当センターがあかし市民図書館と共同で様々なイベントを開催してきました。初めての試みである学生演劇、その詳細を次号にてご紹介します。

開催の
お知らせ

第8回 『近代建築の保存と再生を考える』

2024年11月6日(水)18:00~(17:30開場)

講師 松村 淳 人文学部講師

戦後の高度経済成長期に建設された鉄筋コンクリート造のモダニズム建築の公共建築物が、老朽化によってその更新時期を迎え、保存か解体かをめぐる議論が活発化しています。東京駅のような洋風の近代建築は保存を前提とした議論がなされるのに対して、モダニズム建築は保存に向けた機運の高まりに欠けることが多いです。なぜモダニズム建築の保存は難しいのでしょうか。いくつかの事例を元に考えたいと思います。



【会場：明石ハウス】



〒673-0871 明石市大蔵八幡町5-23

地域研究長田センターでは屋上に気象観測測器を設置し、気温、風速風向、相対湿度、雨量、日射量、紫外線A・B波、気圧の観測を行っています。前号から連載形式で、これまでの観測データを公表し、簡単な解説を加えた記事を掲載しています。第2回は日最高気温です。

表1 長田センターで観測した月別日最高気温 (2012~2020年)
単位 (°C)

		日最高気温												年平均値
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
2012	11.6	12.8	17.5	26.9	27.3	30.3	37.5	37.2	33.8	29.1	20.5	15.4	24.99	
2013	12.5	16.7	21.1	23.0	30.0	36.3	34.5	37.4	-	32.3	22.8	15.6	25.65	
2014	13.9	16.7	19.4	24.9	31.1	33.3	37.0	33.3	31.9	27.9	22.0	18.3	25.81	
2015	15.2	15.0	21.3	24.4	32.0	30.2	36.7	38.2	30.9	26.8	23.1	21.9	26.31	
2016	15.8	19.8	20.7	25.0	30.2	31.7	34.6	37.1	34.5	29.4	22.4	19.6	26.73	
2017	14.4	14.2	19.0	22.9	27.5	-	35.1	36.1	31.4	28.6	22.4	14.4	24.18	
2018	14.0	16.3	23.3	25.1	27.7	31.7	38.0	37.4	31.9	29.3	23.7	21.6	26.67	
2019	12.9	16.2	17.7	26.3	31.7	30.4	34.7	37.1	36.1	30.8	22.4	17.4	26.14	
2020	17.5	18.7	20.7	22.8	29.1	33.0	33.3	37.8	31.8	28.2	24.8	16.8	26.21	

※2013年9月と2017年6月は測器のトラブルで欠測日が生じたため、値を掲載しない。それにともない一番右の年平均値を薄グレーで示している。

最高値を記録した2015年8月1日は朝からよく晴れ、全国223地点で猛暑日となりました(最高気温を観測したのは16時29分)。この日、神戸地方気象台では朝から夕方まで煙霧が観測されています。煙霧は砂埃・ちり等で視程が悪い状況を指しますが、その原因には大気中の微粒子(大気汚染物質等)の増加が挙げられます。環境省によれば、2015年7月30日から8月5日にかけて全国的に煙霧が観測され、PM_{2.5}濃度が高い状態が続きました(この期間、大陸からの越境による(大気汚染物質飛来)の影響はあまりなかったと分析されています)。長田の大気汚染物質観測地点のPM_{2.5}濃度を調べると、8月1日は36.13 μg/m³と、国の環境基準(1日平均値が35.0 μg/m³以下)を上回っており、翌8月2日はさらに高い39.75 μg/m³を観測していることから、数日にわたり高濃度が続いていたことがわかります。このように夏の晴天日に大気汚染物質が滞留すると、体調不良になる人も多く、熱中症以外にも

長田地域・活動報告 人文学部 講師 鈴木 遥

人文学部鈴木遥講師のゼミ生が、6月11日に、神戸市長田区にある神戸新長田日本語学院にて日本語を学ぶ留学生との交流会を行いました。神戸新長田日本語学院では、現在、120名を超える留学生が日本語を学んでいます。

交流活動では、双方が企画を立てました。留学生は、歌とダンスの披露や、自国の文化に関する日本語でのポスター発表を企画しました。鈴木ゼミ生は、茶道文化の紹介とトランプ遊びを企画しました。

交流会当日、会場は終始、学生達の笑顔と笑いに包まれました。留学生によるポスターセッションでは、留学生が一生懸命発表をし、日本人学生がそれを聞き、いくつも質問をしていました。茶道文化の紹介では、日本人学生が丁寧に点てた抹茶を一人一人に配りました。はじめて口にする抹茶の苦さにびっくりする留学生もいました。

記念撮影・集合写真



本年11月19日には、神戸学院大学有瀬キャンパスに留学生を招待し、再び交流会を行う予定です。

注意が必要な事例です。

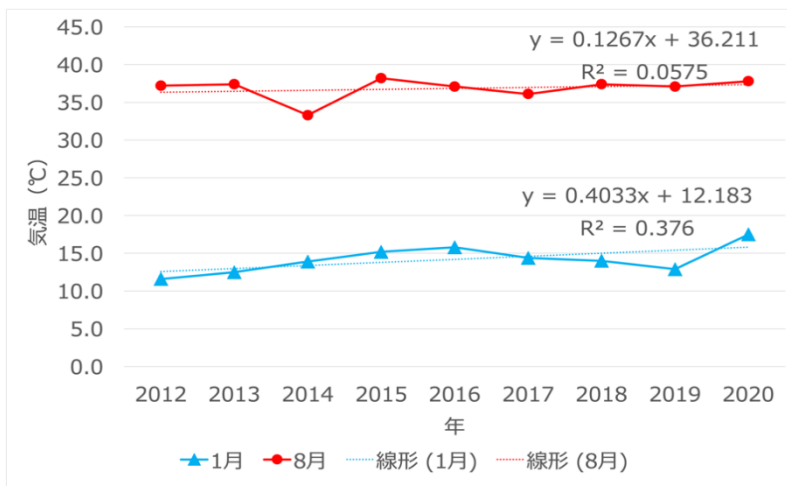


図1 長田センターにおける日最高気温の経年変化 (2012~2020年)
水色三角：1月、赤色丸：8月

図1は、1月、8月の値について、長期変動を調べるために時系列変化と線形単回帰および回帰式を載せたグラフです。どの要素からも若干の上昇傾向が読み取れますが、前号で解説した年平均気温と同様に、冬季の1月は相対的に上昇傾向がはっきりと見えます。

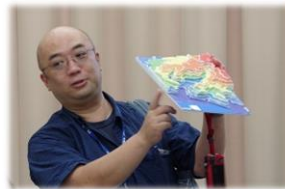
次回は日最低気温を掲載する予定です(文章量の都合により、日最低気温は次号掲載となります)。

[参考文献]

- 気象庁 (2015) 日々の天気図, No.163. (<https://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/data/hibiten/2015/201508.pdf>) .
- 環境省 (2016) 平成27年度黄砂飛来状況調査報告書. (<https://www.env.go.jp/content/900399972.pdf>)

地域研究センター
教員紹介

おおいし しんや
大西 慎也 教授 (教育学)



Q. 研究について教えてください

A. 私の専門は教育学です。その中でも、教師の資質・能力の向上について研究する教師教育学、地域素材を活かした実践を開発する教科教育学、カリキュラム論や授業論について研究する教育方法学を研究しています。学校教育において、学ぶべき内容と子どもをつなぐのは一人の教師です。現場の教師との対話をとおして、その営みの改善や課題解決を模索しています。

Q. 地域との関わりについて教えてください

A. 私は、明石市や淡路市で小学校の教員を18年務めていました。その頃から、社会科にこだわりをもって研究してきました。そして、現在も明石



教員の資質・能力の向上について(写真は小学校教員時代の授業風景)



旧明石城天守台より明石海峡方面を眺める

市内の小中学校の先生方と明石近隣のフィールドワークを行い地域素材の掘り起こしとその教材化に取り組んでいます。明石をはじめ有瀬キャンパス周辺には、様々な地域素材が存在します。それらは、教科書には掲載されていないものの、教材として素晴らしい価値をもった素材です。この良さを多くの先生方、子どもたち、そして地域の皆さんに知っていただきたいと思っています。

開催報告

7.28 見学会&ワークショップ『朝霧川源流のため池と歴史を訪ねて』を開催しました



人文学部 教授 矢嶋巖

神戸学院大学有瀬キャンパスは、二級河川の朝霧川の上流に位置しています。この川でつながる明石市の朝霧小学校区まちづくり協議会環境部会と本学地域研究センターが市民を対象として企画した、朝霧川上流である神戸学院大学有瀬キャンパス内を見学するフィールドワーク・ワークショップが7月28日(日)に行われました。朝霧小学校区まちづくり協議会の西谷寛氏、水野裕行氏と、人文学部の大西慎也教授、矢嶋巖教授、福島あずさ准教授、鈴木遙講師が、解説役やワークショップのファシリテーター役を務めました。参加者は34名で、盛況となりました(このうち本学人文学部2年次生が2名参加)。

まず、622 教室で開会挨拶が行われたあと、矢嶋教授から本学創設の経緯、朝霧川上流域で本学が位置する有瀬の漆山地区の自然と歴史についての解説があり、次に福島准教授から過去の朝霧川の氾濫と気象条件について解説がありました。



後半のワークショップは119A 演習室で6班に分かれて行われました。まず西谷氏から朝霧川の自然環境やこどもの頃の思い出、氏が朝霧川を中心に行っている環境保全活動の取り組みが紹介され、続いて朝霧校区まちづくり協議会の水野氏から、不動産業の見地から土地が有する水害リスクの把握の重要性、過去の朝霧川における水害についての解説がありました。このあと、前半のフィールドワークでそれぞれが最も感じ入ったことを、参加者が絵や文にして模造紙に書くことにより班ごとに共有する取り組みが行われました。

このうち、大西教授がファシリテーターとして加わった班では、大西教授が製作した朝霧川流域の地形立体模型を用いることにより、地形と水害発生リスクの話題で大いに盛り上がりました。最後に矢嶋教授が、班ごとに模造紙に描かれた内容を紹介しました。とくに複数の小学生らが薬用植物園で目にしたという食虫植物の絵を描いたことを紹介すると、盛んな拍手が起きました。

参加者からは、朝霧川の上流の様子を初めて知ることができた、グリーンフェスティバル以外では初めて来たがとても面白かったといった声が寄せられるなど、充実した会となりました。



当日配布のレジュメ&情報集↑

地域研究センター
ニュース

報告・7月31日

明石市松が丘小学校いどばた会議に参加しました

明石市立松が丘小学校いどばた会議があさぎり地域福祉センターで行われました。昨年に引き続き、人文学部から、矢嶋巖教授、大西慎也教授、中村健史准教授、福島あずさ准教授、松村淳講師の教員5名と、大学院生1名が参加しました。

イベントでは、松村講師が、「空き家という「資源」を活かす一団地で展開されている取り組みを事例に」というテーマで発表しました。



詳細 ↑

報告・8月3日 —あかし市民図書館・神戸学院大学地域研究センター共同開催—

第2回大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェを開催しました 人文学部 准教授 鹿島基彦

8月3日(土) 14:00-15:30に明石市民図書館にて図書館との共同開催イベントとして、第2回ヒューマンサイエンスカフェ『地球温暖化によるサンゴ礁の衰退』を開催しました。

一般13名と職員2名の出席がありましたが、最も期待していた大学入学前の中高生の参加はありませんでした。予約方法が電話と窓口受付しかなかったことも理由にあり、メールやQRコード、SNS配信などが必要との指摘もありました。

地球温暖化が背景にあるサンゴの危機の話でしたので、最初に「サンゴと温暖化のどちらにより興味があるか？」アンケート質問をしたところ、半々くらいの割合でした。いずれの参加者も終始とても真剣に聞いており、講演後には温暖化に関する質問をはじめ、質疑応答が活発に行われました。



詳細 ↑

報告・8月4日 神社でシェイクスピア
第3回大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェを開催しました

人文学部 教授 中山文

稲爪神社の社務所にて、中山ゼミ3回生によるリーディング公演が行われました。今年の『ロミオとジュリエット』は伊藤茂本学名誉教授による台本構成で、昨年の『リア王』に続くシェイクスピアシリーズ第2弾。



公演の様子

日本家屋をうまく使って立体的な舞台を創りあげ、30席準備した客席が満席になりました。長谷川教授のレクチャーの後、学生たちの初々しく真摯な演技に、観客は息を凝らして見入っていました。あっという間の40分でした。

上演後はアフタートークが行われ、演劇初心者ばかりのゼミ生が限られた時間で作品をまとめ上げる難しさと達成感が語られました。

報告・8月24日 あかし市民図書館と共同開催
第4回大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェを開催しました

人文学部 准教授 金益見ほか

あかし市民図書館にて『図書館で「なりた自分」を見つけよう』が開催されました。「10代の図書館利用者に本と親しむ機会を提供できないか」という図書館側の依頼を受け、本センター教員が中心となって企画を練り、あかし市民図書館で開発された「たこ文庫」カードを利用したワークショップを実施しました。

読んだ本をもう一度、客観視してみることで「自分」を知り、「なりた自分」を見つけることができます。イベントで見ず知らずの人たちと本の話を通して他の人を「知る」と同様に、本を通して自分自身を知ることにも可能ならず、「たこ文庫」をうまく利用して、自分を見つけてみることを参加者へ伝えました。



参加教員:大西、金、鹿島、中村、鈴木、前田

報告・10月12日~13日
稲爪神社秋例大祭に参加しました

人文学部 准教授 三田牧

明石市大蔵谷の稲爪神社秋の大祭に本学学生と教員が参加させていただきました。

10月12日の宵宮では、獅子舞や囃口流しを鑑賞しました。13日の本宮では、100人を超える人文学部の学生が献灯やたいと女衆神輿を担ぎました。

神戸学院大学は稲爪神社の氏子地域に立地しているため、学生たちも在学する間は氏子としてこのような機会をいただいています。大蔵谷の地域社会にふれ、学生それぞれに学びがあったはずですよ。お礼申し上げます。

予告・12月末~2025年1月末(詳細未定)
稲爪神社にて写真展を開催します

2024年末より明石市稲爪神社にて地域研究センター・人文学部による恒例の写真展を開催します。

展示写真は、本学の教員・学生がゼミ活動・研究活動の一環として稲爪神社や明石市大蔵地域の行事や風景を撮影したものです。一枚一枚の写真は学生の「研究」成果であり、大蔵地域の「今」を伝える重要な資料でもあります。

「地域と繋がる大学」の実践である写真展を多くの方にご覧になっていただくと幸いです。

ご来場をお待ちしております。

地域研究長田センター

〒653-0042 神戸市長田区二葉町7-1-18
(旧二葉小学校) ふたば学舎3階



地域研究長田センターは、地域と協働した実践的な研究を行う拠点として2010年11月に設立されました。

活動拠点

明石ハウス

〒673-0871 明石市大蔵八幡町5-23
Tel. 078-995-5414 (木・金 9時-16時)

※開館予定は変更になる場合がございます



明石ハウスは、神戸学院大学が大蔵八幡町にお借りしている研究活動拠点です。建物(大塩邸、明治30年代後半築)は、明石市の都市景観形成重要建築物に指定されています。

神戸学院大学 地域研究センター通信

〒651-2180神戸市西区伊川谷町有瀬518 TEL: 078-974-4232 FAX: 078-974-4258

https://card-kobegakuin.jp mail: frb@human.kobegakuin.ac.jp

発行: 2024年11月 発行: 神戸学院大学地域研究センター(有瀬キャンパス3号館6階)

